平成１５年度

第３５回　越谷市民文化祭

平成１５年１１月２１日（金）～２４日（月）

１０：００～１９：００（最終日は１８：００）

越谷市郷土研究会展示部門出品紹介

於　越谷コミュニティセンター　大ホールホワイエ

◇周りの１０個の輪は、昭和２９年１１月３日に合併した十町村である二町八ケ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。
十町村とは、越ケ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・荻島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。

◇中央部周りのデザインは、カタカナの『コ』を４個集めたもの。
つまり、越谷の『越』（「コ４」）を意味する。

◇中心部のデザインは越谷の『谷』の文字を図案化したものである。

◇昭和３０年１１月３日には、草加町に合併していた川柳村のうち、伊原、麦塚、上谷が越谷町に入る。

◇越谷町は、昭和３３年１１月３日に市に昇格し、越谷市となる。

第35回 市民文化祭の 越谷市郷土研究会展示作品リスト

番号	題名	頁	出品者名	住所
1	三ノ宮卯之助の力持ち番付	1・2	高崎　力	平方
2	三ノ宮卯之助の力石（横浜市都筑区）	3	谷岡　隆夫	宮本町三丁目
3	会田七左衛門家の墓誌銘	4・5	会田　俊	神明町二丁目
4	武蔵国新西国観音霊場めぐり	6～10	岩瀬　静江	蒲生東町
5	出羽地区の石仏	11～25	加藤　幸一	春日部市大枝
6	越谷の六阿弥陀	26・27	菅波　昌夫	南越谷一丁目
7	近藤　勇　－逮捕か任意同行か－	28・29	宮川　進	千間台西二丁目
8	増林のねんね河岸の河童	30～31	山本　泰秀	増林二丁目

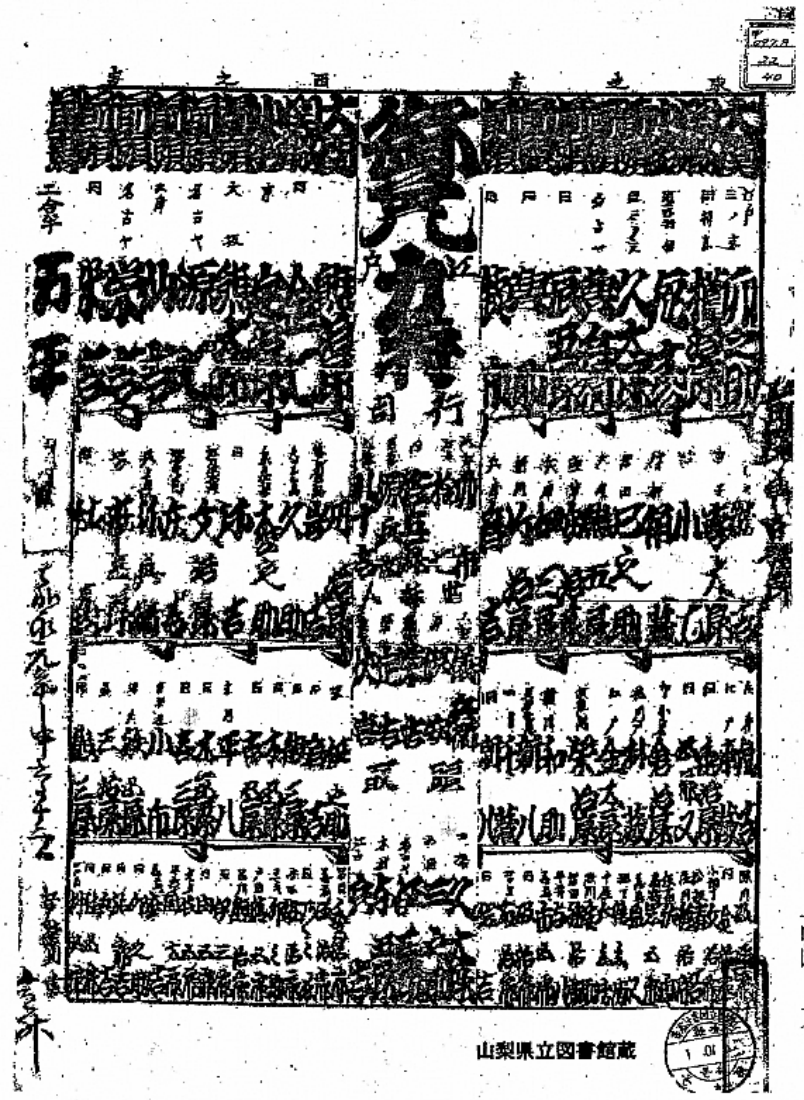
※右の展示作品や入会に関する問い合わせ先は、
越谷市郷土研究会の谷岡隆夫（当会会長・☎９６２－７５２７）までお願いします。

平成１６年度入会申込方法

※郷土研究会の役員までお申し出下さい。その場でご入会できます。
※なお、後日ご入会する場合は、次のとおりです。
住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、
ハガキや電話・ＦＡＸでの申し込み先は、
〒３４３－０８０６　越谷市宮本町３－１１７－８
☎０４８－９６２－７５２７　FAX ０４８－９６２－７５２７
谷　岡　隆　夫（会長）
会費２，０００円の郵便振替先は、
口座番号　００１２０－４－１６４０８３　越谷市郷土研究会
※ご入会されますと翌月より平成１７年３月まで本会で行われるさまざまなイベントのご案内のおハガキを発送致します。

1　三ノ宮卯之助の力持ち番付

高崎　力



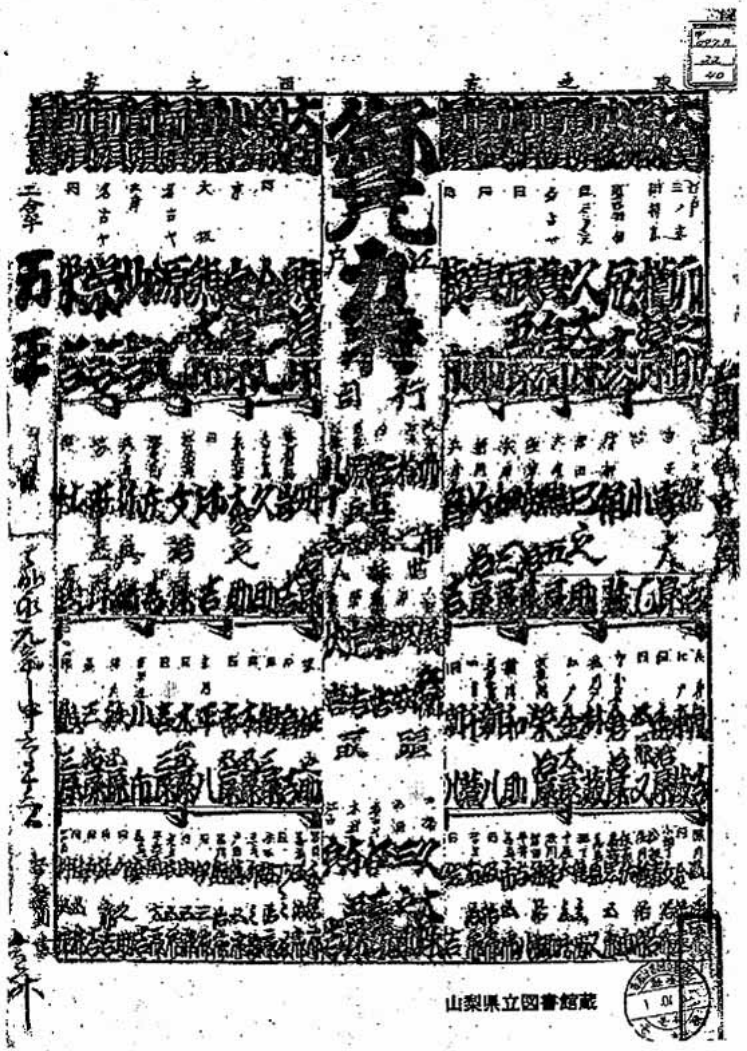
山梨県立図書館蔵

日本一力持三ノ宮卯之助年譜

文化　四年（一八〇七）　卯之助　岩槻領三野宮村（現・越谷市三野宮）に生まれる
文政　八年（一八二五）正月　卯之助（18歳）肥田文八（岩槻・長宮村）と久喜市太田袋諏訪神社にて力石五十貫を持つ
文政十二年（一八二九）三月　卯之助（22歳）本郷小島久蔵と越谷市瓦曽根最勝院で力石七十貫余を持つ
同じく岩槻・飯塚神社で力石を持つ
文政十三年（一八三〇）三月　卯之助（23歳）本郷久蔵と岩槻・鉤上神明社で「雲龍石」等を持つ
十月　卯之助・本郷久蔵と江戸下町で力石五十貫余を持つ
（現在、千葉木更津・観感寺が保存）
天保　二年（一八三一）四月　卯之助（24歳）越ヶ谷久伊豆神社で五十貫余を持つ
四月　卯之助・大木戸仙太郎と横浜市港北区綱島諏訪神社で飯田石・池谷石を持つ
天保　三年（一八三二）二月　卯之助（25歳）春日部・東八幡神社にて力石百貫と六拾貫持つ
天保　四年（一八三三）六月　卯之助（26歳）一座は江戸深川八幡宮境内において徳川第十一代将軍家斉御上覧力持の栄を受ける
天保　七年（一八三六）六月　卯之助（29歳）江戸力持番付で西の関脇となる
天保　九年（一八三八）四月　長野県諏訪大社秋宮にて七十貫を持つ
天保十一年（一八四〇）二月　卯之助（34歳）大阪市天満宮にて大盤石足指
嘉永　元年（一八四八）三月　卯之助（41歳）越谷・三野宮神社で大盤石等を持つ
六月　江戸力持番付で東の大関となる
嘉永　二年（一八四九）卯之助（42歳）越谷・三野宮神社で白龍石を持つ
卯之助　山梨・甲府・稲積神社で百十貫を持つ
嘉永　五年（一八五二）卯之助（45歳）埼玉・桶川・寿・稲荷神社で大盤石を持つ
嘉永　七年（一八五四）七月八日　卯之助江戸にて死亡（四十八歳）…数え年

1　三ノ宮卯之助の力持ち番付

高崎　力



山梨県立図書館蔵

2　三ノ宮卯之助の力石（横浜市都筑区）

谷岡隆夫

越谷出身、日本一の力持ち三ノ宮卯之助の没後百五十年となる。卯之助が力自慢の興行で持ち上げた力石が横浜市都筑区で二ヶ所残っている。

神奈川県にはこの他、九個の卯之助の力石が確認されているが、東京都では一個残っているのみである。

1、**横浜市都筑区南山田　山田神社**　　一個

岩つき　卯之助　と切り付けがわずかに読める。

卯之助の出身地の越谷市三野宮は元武州岩槻領であった。

寸法　たて　六〇cm　よこ　三三cm　厚さ　二五cm

重量　神社の説明碑では重量三十貫六百　とある。

年代は不明。

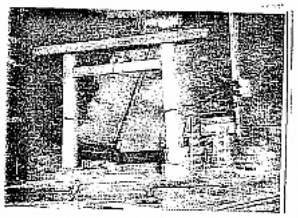
2、**横浜市都筑区大熊町　杉山神社**　　一個

岩付　卯之助　大木戸　仙太郎　持之　と読める。

寸法　たて　七八cm　よこ　三七cm　厚さ　三五cm

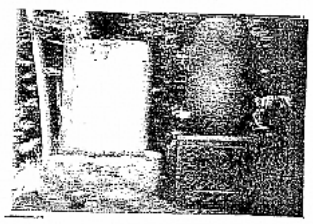
重量　約四〇貫　（推定）山田神社より一回り大きい。

年代は不明。

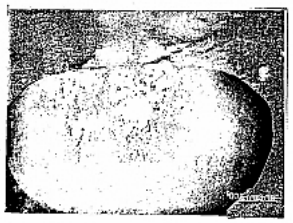


山田神社入口

杉山神社境内



山田神社の卯之助力石



杉山神社の卯之助力石

3　会田七左衛門家の墓誌銘

会田　佐仪

神明町二丁目一番地の会田家そばに「月高山政重院」と呼ばれた寺院の跡地がある。現在は墓地となっている。本堂は、現在の「くるみ幼稚園」のあたりにあったと思われる。院号の「政重」は、七左衛門村の村名のもとになった会田七左衛門政重(まさしげ)をさしている。

会田七左衛門政重（まさしげ）は、天正十八年（一五九〇）に会田出羽家の養子となり、その後、会田出羽家から分かれて神明下村に住み、会田七左衛門家の初代となる。そして、寛政年間に伊奈家の没落の後、伊奈家の家臣である八代会田七左衛門重昌（法名は素月居士）の時に神明下村の現在地、神明町二丁目一番地あたりに住んだと推定できる。その子孫が十三代目の会田俊（とし、明治四十二年生まれ）である。

綾瀬川流域の沼沢が広がる七左衛門村、越巻村、大間野村の三村を含めた地域は、江戸初期の寛永年間に会田出羽の一族である会田七左衛門政重（初代七左衛門）によって開墾された地域である。初めは槐戸（さいかちど）新田とか七左新田（七左衛門新田）などと呼ばれた。槐戸新田（新田槐戸村）は後に七左衛門村となり、さらに元禄八年（一六九五）には、七左衛門村から越巻村と大間野村が分村したのである。

七左衛門村の村名のもとになった会田七左衛門政重の墓塔の所在は現在不明となっているが、夫人の墓塔はこの墓地に現存している。この墓塔は、法名が「慶誉」となっているので、法名が「月高」の後妻ではなく、前妻のものと推定できる。

また会田七左衛門家墓所に墓誌銘があり、そこに会田七左衛門家の今日までの歴史が金沢家十五代徳峯義道氏によって詳細に刻まれている。次の頁に全文を紹介する。

《会田七左衛門家の墓所にある「墓誌銘」》

大祖会田七左ヱ門政重ニツイテハ八代素月政昌ノ墓銘ニ　其先出於北条十郎氏房有故改今姓トアルノデ　モト岩槻城主デアツタ太田北条氏房
ノ子カ又ハソノ所縁ノ者デアツタト見ラレル　恐ラク天正十八年ノ岩槻落城ニ際シ当時弱冠十才ノ少年政重ハ城内カラ脱出シテ逃レタノデアロウ
江戸時代ノ地誌越谷旧ノ墓ニハ七左ヱ門ハ越谷ノ土豪会田出羽守資久ニ拾ハレ養育ヲ受ケ成長ノ後神明下ニ分家シタトアル　又脱出時ノ小袖ソノ
他ノ所持品カラ推シテモ由緒正シキモノト解サレルト記シテアル　分家シタ七左ヱ門政重ハ関東代官伊奈半十郎忠治ノ地方代官トシテ伊奈家ニ仕ヘ新田
開発　検地奉行トシテ活躍シタコトガ新編武蔵或ハ武蔵田園簿又ハ神明縁起及伊奈家ノ関係資料ニヨリ明カデアル　過去帳ニヨレバ大祖政重ノ養
父母ハ道貞禅定門及妙林禅定尼トアリ　又養祖父ガ法出妙伝トアルガ　コノ養父母ガ出羽守資久デアルカハ不明デアル　因ニ資久ハ法名ヲ道光ト云ヒ七月十六日
ガ忌日デアル　大祖政重ノ墓石ハ当墓所ニ現存セヌガ地震ソノ他ノ災害デ当所ニ埋没シタト推測サレル　二代政達以降ハ触書旧記又ハ伊奈家赤山陣屋ノ家
臣原敷配置図ヲ見テモ明カデ　伊奈家中ニ於テモ重キヲナシタガ　七代政侍ハ七左ヱ門　八代重昌ハ孫七トシテ父子同時ニ出仕シタコトニナリ　伊奈家改易後ハ
野ニ下リ　神明下ニ居住シ現在ニ及ンデ居ル　遠縁ト覚ク家系ハ嫡ネ嫡子ガ継承シテ居ルガ八代素月ノ如キ例外モアル　ソノ経緯ハ知ル由モナイガ父子同時出
仕ノ関係カラ主命ニヨルカ又ハ実子ト目サルルニ足ル深イ縁ニヨリ結バレタト推測サレル時代ガ降リ十四代目モ之ニ倣ツテ居ル即チ嫡子ニ恵マレナイ十三代目ハ内室
正導俊賢ガ在官中自ラガ訓育ヲ施シタ郎下ラ養女トシ之ニ他家ヨリ入夫セシメテ十四代ヲ継承セシメ名跡ヲ不易ノモノトシテ居ル
大祖政重ガ伊奈忠治モトデ開発シタ新田ト称サレタガ元禄八年武蔵国幕府領総検地ノ際　大間野　越巻　七左ヱ門ノ三村ニ分村サレ
現在ノ越谷市七左ヱ門ノ名ヲ取ツテ名ヅケタモノデアル会田素月ハ鈴木家ノ出ナルガ八代目ヲ嗣ギ伊奈家改易ノ後赤山陣屋即チ現川口市カラ神明下ニ
隠棲(32歳)シ専ラ花鳥風月ヲ友トシテ余生ヲ送リ其後代々名主トシテ平場ニ名跡ヲ守ツタ様デアル　十三代豊心法得ハ須賀家ヨリ入夫シ埼玉師範卒ノ
教育者トシテ温厚ナル性格ハ萬人ニ慕ハレ多クノ功績ヲ残シテ居ル　又十三代内室正導俊賢ハ十二代賢友恒須ノ嫡女デアルガ幼ニシテ父ヲ失ヒタルモ良
ク亡父ノ後室ニ孝養ヲ尽シ病弱ノ夫ヲ扶ケテ家制ヲ整ヘ會田家ノ基礎ヲ不動ノモノニシタコトハ賞スベキモノガアル　加フルニ優秀ナル
郵政官吏トシテ四十年間勤続シ局員百二十名ヲ擁スル普通郵便局ノ本邦女性第一号局長ニ仕命サレ困難ナル労働問題モ
寛カニ処理シ大任ヲ果シ惜マレテ退官シタガ引続キ乞ハレテ県公安委員及越谷簡易裁判所調停委員トシテ治安並ニ福祉ニ
貢献スルトコロ大デ　政府ハコノ多年ノ功績ニ対シ昭和五十四年四月二十九日勲四等瑞宝章ニ叙シタガ宜ナル哉デアル
十四代ハ全ク血縁ナキモ夫妻共ニ孝心深ク且祖先崇拝ノ念厚ク昭和五十八年四月会田家之墓並供養塔造営ニ当リ乞ハレテ拙文
愚筆モ顧ミズ金沢家十五代徳峯義道茲ニ謹ンデ撰スルモノデアル

墓誌銘

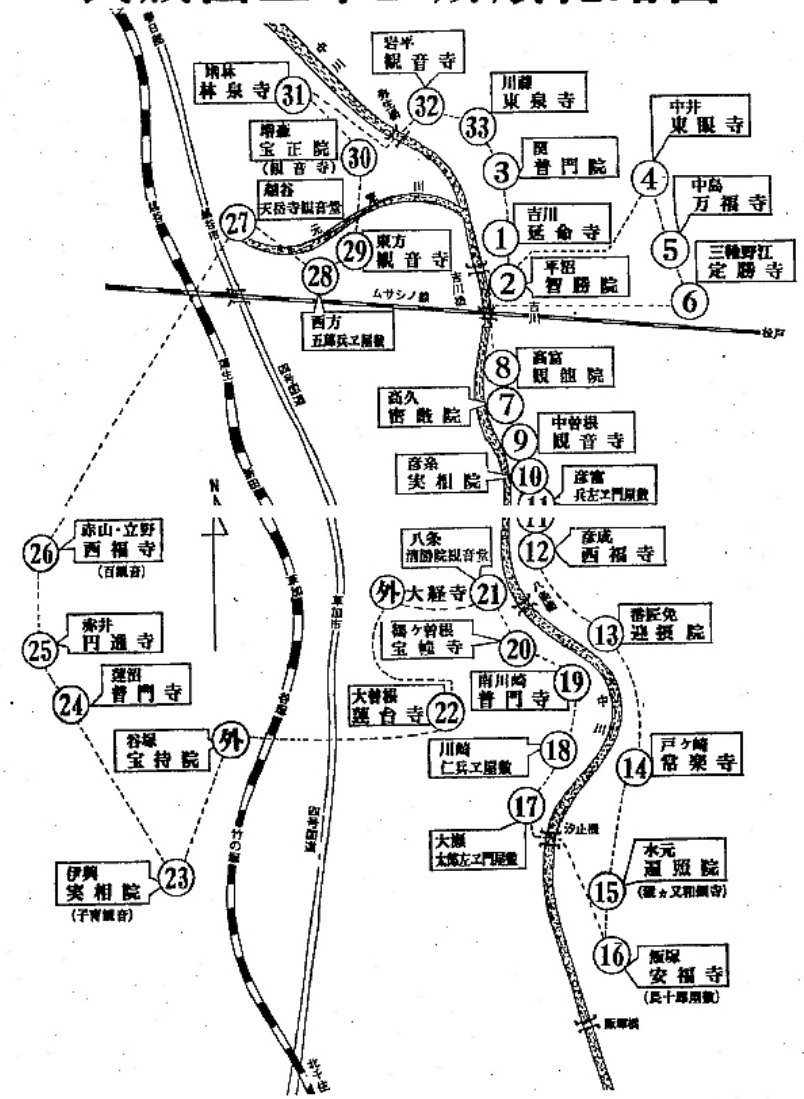
※本文十行目の「倣」は原文では「做」となっている。

4 武蔵国新西国観音霊場めぐり

十二年に一度の午年は、観音さまのご開帳(四月十日～二十日)にあたります。四月十四日・十八日・十九日・二十日、独りで自転車でめぐりました。

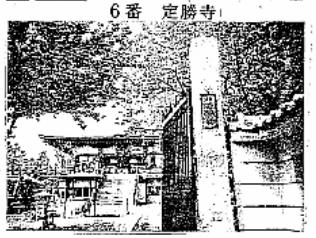
岩瀬静江

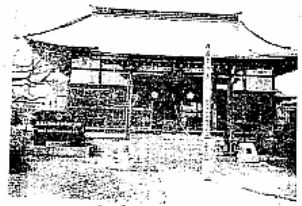
―武蔵國三十三所順礼略図―



6番　定勝寺

1番　延命寺

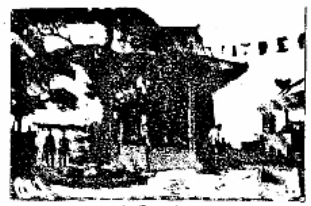

7番　密厳院


2番　智勝院

8番　観龍院

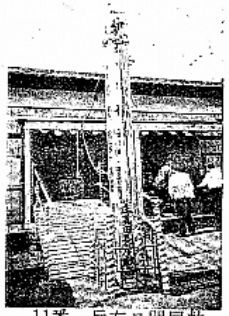
3番　普門院

9番　観音寺


4番　東眼寺

10番　実相院

5番　万福寺


11番　兵左ヱ門屋敷

12番　西福寺

13番　迎攝院

14番　常楽寺

15番　遍照院

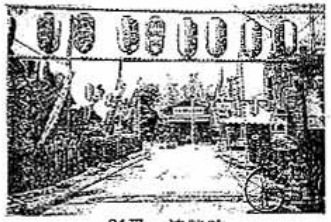
16番　安福寺

17番　太郎左ヱ門屋敷

18番　仁兵ヱ屋敷

19番　普門寺

20番　宝幢寺


21番　清勝院

22番　蓮台寺

23番　実相院

24番　普門寺

25番　円通寺

26番　西福寺

27番　天樹寺

28番　五郎兵ヱ屋敷

29番　観音寺

30番　宝正院

31番　林泉寺

32番　観音寺

33番　東泉寺

番外　宝持院

番外　大経寺

第八番　奉拝　平成元年歳買十買

石仏観音

高市郡高宮

霊雲山　観音院

観龍魂

奉拝　平成十四年　壬午歳四月大開帳

第二十六番　百観音

飛大悲殿

補陀落山　西福寺

5．出羽地区の石仏

加藤幸一

出羽地区には、江戸時代は四丁野村・谷中村・神明下村・七左衛門村・越巻村・大間野村の六個村があった。今回はこれら六個村の石仏類について調査をおこなった。調査の詳細な記録については、四丁野（現、宮本町）の迎振院、七左衛門（現、七左町）の観照院、三昧院、大間野の正光院、光福寺に資料を貸かせていただくのでご請求（無料）願いたい。

なお、平成五年から開始した他地区の石仏調査記録については、西方の大聖寺（大福様の不動様）内にある資料室（見学無料）や越谷市立図書館にも保管されている。

旧四丁野村

現在の宮本町あたりが江戸時代の四丁野村である。

(1) 大野家（宮本町一一一）北側の土手

図1の上部には、弁財天（ソ）と水天（バ）の梵字が刻まれているのがかすかにわかる。

図2は、全国的よく見られる庚申塔である。中央には鶏が六本もある青面金剛が鬼を踏みつぶし、喰宝と鍬、弓と矢、剣を持ち、女性の髪の毛を掴ってぶら下げている。

上部には太陽と月、下部には三猿が刻まれている。

(2) 十王堂公所

図3は、阿弥陀様を主尊にしている初期の庚申塔である。

(3) 稲荷神社（花稲荷）

図6は、図2や図4と同様によく見られる形式の庚申塔である。

図5の方は、庚申様を表す梵字（ウーン）と文字（青面金剛）が刻まれた庚申塔である。

図7は、地元の伊勢講の人々が建てた石塔で、八坂神社の神、天王様を祀っている。

(4) 薬師堂

図8、10、11は、すべて庚申塔である。図9は、六人の地蔵が刻まれている。

(5) 今はなき愛宕神社

宮本町二一一八六の久世家の西隣にあったが、惜しくも平成十五年に取り壊された。

ここに山の神様、オオヤマツミノ神を祀る石塔があった（図12）。

(6) 正覚院

この寺院の住職は、江戸時代は越ケ谷の久伊豆神社の神主も兼ねていた。

図15は、山形県にある出羽三山に参拝した記念に造立したものである。

図16は、般若を彫って木の実や豆などを食べて修行した木食上人である観正が建てた石塔である。建てるにあたって広範囲の地域の人々からの協力があった。石塔の上部には、「ア」「ウン」の梵字が刻まれている。

旧谷中村

(1) 西福院（谷中の観音堂）

新四国八十八箇所巡りが盛んに行われていたが、ここはその二十二番目の札所であった。

図2は、それを物語るものである。

図4は、市内で二番目に古い板碑型をした江戸初期の貴重な庚申塔である。

(2) 稲荷大明神

図5は、水神様を祀る石塔である。

(3) 下組の稲荷神社

図6は、各地でよく見られる形式の庚申塔である。

(4) 三ツ谷の稲荷神社

ここにも庚申塔（図7）が見られる。

(5) 出羽地区のポンプ場そば

図8は、馬頭観音を祀る石仏であるが、江戸時代に存在していた「三ツ新田」の文字が刻まれていて大変貴重である。三ツ新田とは現在の「三ツ谷」（谷口一丁目あたり、三ツ新田の谷中という意味か）の地名を指す。

旧神明下村

(1) 八幡神社

図1と2は、文字が刻まれた庚申塔である。

(2) 会田七左衛門家の墓所

図3は、初代会田七左衛門の夫人の墓塔である。七左衛門は、七左衛門村を含む広大な地域の開墾に尽くした人物である。

(3) 神明橋西詰土手

ここに庚申塔（図4）と巡礼した記念に建てられた石塔（図5）とがある。この場所は、神明下村の地名の起こりとなったかつての神明神社の跡地である。

(4) 薬師堂（神明町二丁目集会所）

ここに六十六部回国塔（図9）がある。日本国内の六十六カ国の各霊場に書写した法華経を納めあげたことを記念したものである。

(5) 鈴木家（神明町二一二四五）路傍

図11は、戦後、鈴木家の前に流れる堀の中から見つけられた馬頭観音の石塔である。

（6）稲荷神社（神明町三－四六七）
図12は、学問の神、天神様（菅原道真）の石塔である。
（7）地蔵堂（神明町三－三二八）
図13は、よく見られる形式の庚申塔である。

旧七左衛門村

会田七左衛門によって江戸初期に開墾された村である。
（1）山王日枝神社（旧、四ツ家集会所）
図1は、初期の貴重な庚申塔である。
（2）観照院。
このあたりを開墾した会田七左衛門が建てた寺院である。この寺院は新四国八十八箇所の二十一番札所霊場に指定されている。図2は、それを示す貴重な標識塔である。
図4は、とても見事な庚申塔である。庚申様（青面金剛）の腕や足には蛇が絡み付いている。また台石に刻まれた四匹の鬼たちは、筋肉が隆々として描かれている。
（3）赤山街道・出羽堀交差点
図24は、地元では「三ツ谷地蔵」と呼ばれて親しまれ、三ツ谷地蔵伝説が伝えられている。昔、このあたりに法師がいて、いろいろと困っている人々を助けて、皆から愛されていたが、悪人にねらわれて亡くなった。そこで近くの西川家では、この法師を花っ屋敷近くにお地蔵様を建てた。ところが西川家に運の悪いことが続いた。そこで西川家の耕地の一番奥の端にある、人通りの多い三ツ谷橋のそばの現在地に移した。三ツ谷部落（現在の谷中一丁目あたり）では、娘が嫁に行くとき、赤子が生まれたとき、子供の帯ときなどにお参りをしたという。
（4）天神社
図25は、文字で刻まれた庚申塔である。
（5）下組の稲荷神社
図26は、初期の庚申塔であるが、地蔵菩薩の主尊に三猿が従っているのは珍しい。
（6）赤山街道・四号バイパス交差点
図29と30は、ともに庚申塔である。
（7）大沼六地蔵
図31は、六十六部回国塔である。神明下村の六十六部回国塔（図9）を参照してほしい。
図32、33、34は、すべて庚申塔である。

旧越巻村

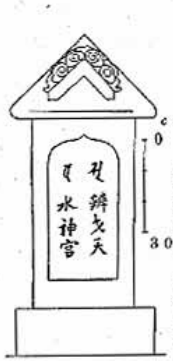
現在の新川町あたりが江戸時代の越巻村である。
（1）島村家（新川二－四〇〇）路傍
図1の雨降山とは、大山詣でで有名な石尊様と大山不動尊がある大山を指している。
図2と3の大雄山とは、小田原の「道了様」として有名な大雄山最乗寺を指す。
（2）新川路傍
図4と5は、死馬を供養する石塔である。
（3）薬師堂
図6は、七左衛門村の図5と同じ、坂東三十三カ所、西国三十三カ所、秩父三十四カ所、四国八十八カ所の合計百八十八箇所巡礼終了の記念の石塔である。
（4）中新田の稲荷神社
図10の菅原荘とは、学問の神様、菅原道真の領地とされた場所をさすのであろう。
（5）丸の内の稲荷神社
図12は、よく見られる形式の庚申塔である。
（6）満願院墓地
新四国八十八箇所の二十番の札所霊場である。図13は、それを示す貴重な石塔といえる。

旧十六間野村

（1）正光院。
図1は、夫のために正光院を開いたといわれる俵井弥兵衛の妻が建てた開山塔である。
（2）三社神社
もとは天神社の地であったという。ここに周辺にあった三つの神社、久伊豆社、稲荷社、弁天社の三社を合祀してできた神社である。
図3は、地元では湯殿神の石であると言われてきた石塔である。
（3）光福寺
図4は、破損が激しい石塔であるが、側面に「敷石供養塔」と刻まれているのが解読できる。正面にはこの寺院の山号である「真龍山」の文字が読みとれる。
参道に面してある六地蔵を祀る場所には、多くの貴重な石仏石塔がある。
その中の図5の百観巡礼塔は、神社仏閣の百のお堂巡りが完了したのを記念して造立。数にちなんでを言わせて功徳を得ようとする百堂巡りは、江戸初期の主に寛文年間前後に埼玉県東部から千葉県、茨城県にかけて見られたものである。

旧四丁野村

1・四丁野 「弁財天・水神宮」文字塔
大野家（宮本町一－二北側の土手）



2・四丁野 青面金剛像庚申塔
大野家（宮本町一－二北側の土手）

3・四丁野 阿弥陀像付き文字庚申塔
十王堂集会所

4・四丁野 青面金剛像庚申塔
十王堂集会所

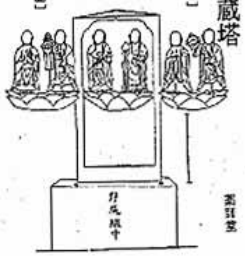
5・四丁野 文字庚申塔
稲荷神社

6・四丁野 青面金剛像庚申塔
稲荷神社

7・四丁野 「牛頭天王」文字塔
稲荷神社

8・四丁野 青面金剛像庚申塔
薬師堂

9・四丁野 六地蔵塔
薬師堂



10・四丁野 青面金剛像庚申塔 蓮華堂

11・四丁野 文字庚申塔 蓮華堂

庚申

12・四丁野 「大山祇命（おおやまつみのみこと）」文字塔

大山祇命

講中

今はなき蓮華宮神社

13・四丁野 青面金剛像庚申塔 迎接院

14・四丁野 青面金剛像庚申塔 迎接院

15・四丁野 「出羽三山」供養塔 迎接院

月山 湯殿山 羽黒山

供養塔

16・四丁野 木食上人の「南無大師遍照金剛」文字塔 迎接院

南無大師遍照金剛

旧谷中村

1・谷中 青面金剛像庚申塔 西福院

2・谷中 『新四国第廿二番』標識付き 普門品供養塔 西福院

天下泰平 普門品供養

谷中村

[側面] 新四国八拾八ヶ所第廿二番 西福院

3・谷中 「馬頭観音」文字塔 西福院

文政元戊寅年 谷中村

馬頭観世音

八月吉祥日 講中

4・谷中 承応三年の板碑型庚申塔 西福院

5・谷中 「水神宮」文字塔 稲荷大明神

水神宮

6・谷中 青面金剛像庚申塔 下組稲荷神社

7・谷中 青面金剛像庚申塔 三ツ谷稲荷神社

8・谷中 『三ツ新田』の馬頭観音像 出羽細のポンプ場そば

観世音

越ヶ谷々

三ツ新田村

講中

旧神明下村

1・神明下 文字庚申塔 八雲神社

庚申

左 弥 但

2・神明下 文字庚申塔 八雲神社

青面金剛

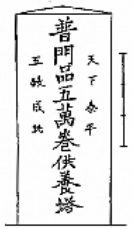
講中

3・神明下 会田七左衛門夫人の墓塔 会田七左衛門家の墓所

神明下 4. 文字庚申塔 神明裏西陣土手

神明下 5. 道標付き百箇所巡礼塔 神明裏西陣土手

神明下 6. 普門品供養塔 薬師堂



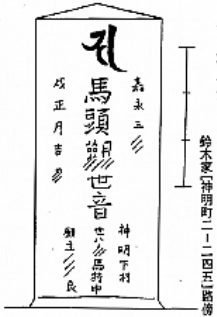
神明下 7. 地蔵像付き千地蔵塔 薬師堂

神明下 8. 阿弥陀像付き文字庚申塔 薬師堂

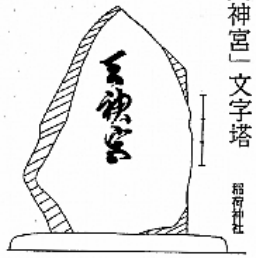
神明下 9. 六十六部回国塔 薬師堂

神明下 10. 六地蔵像付き百堂巡礼塔 薬師堂

神明下 11. 「馬頭観音」文字塔 鈴木家[神明町二一二四五]路傍



神明下 12. 「天神宮」文字塔 稲荷神社

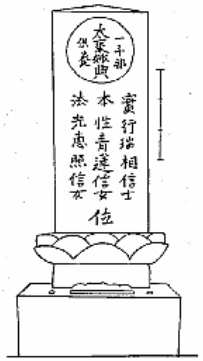


旧七左衛門村

七左 1. 文字庚申塔 山王日枝神社

神明下 13. 青面金剛像庚申塔 地蔵堂

神明下 14. 法華経供養付き墓塔 地蔵堂



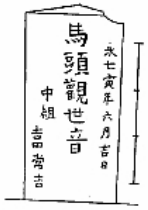
七左 2. 「新四国八十八箇所第二十一番」標識石塔 観照院

七左 3. 道標付き不動明王像 観照院

七左 4. 青面金剛像庚申塔 観照院

七左 5. 百八十八箇所巡礼塔 観照院

七左 6. 「馬頭観音」文字塔 観照院



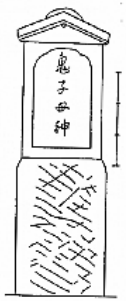
七左 7. 馬頭観音菩薩像 観照院

8. 七左 馬頭観音菩薩像 観照院

9. 七左 馬頭観音菩薩像 観照院

10. 七左 馬頭観音菩薩像 観照院

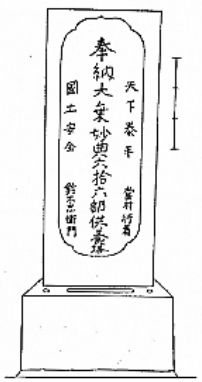
11. 七左 「鬼子母神（きしもじん）」文字塔 観照院



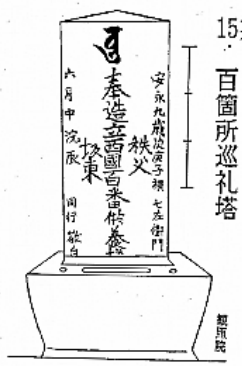
12. 七左 念仏供養塔 観照院

13. 七左 念仏供養塔 観照院

14. 七左 六十六部回国塔 観照院



15. 七左 百箇所巡礼塔 観照院

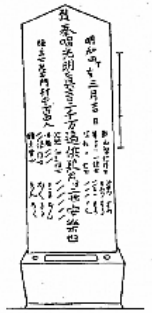


16. 七左 文字庚申塔 観照院

17. 「地蔵菩薩」文字塔 観照院

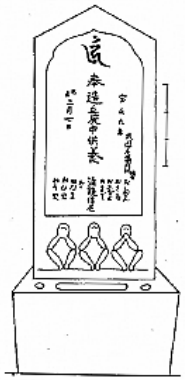
18. 七左 文字庚申塔 観照院

19. 七左 光明真言供養塔 観照院



20. 七左 文字庚申塔 観照院

21. 七左 文字庚申塔 観照院



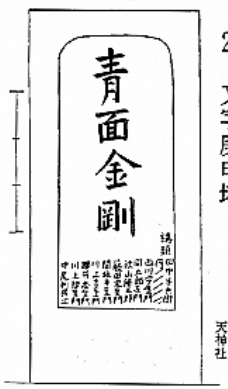
22. 七左 青面金剛像庚申塔 観照院

23. 七左 文字庚申塔 観照院

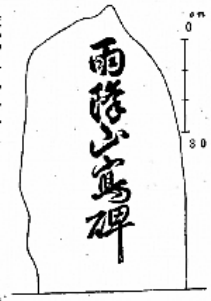
24. 七左 『三ツ谷地蔵』石仏

世田谷上赤山街道交差点

25. 七左 文字庚申塔 天福寺



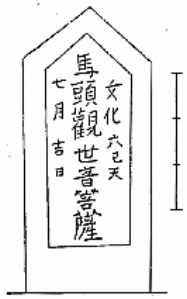
旧越巻村



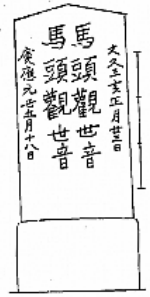
1・雨降山碑石（あふりやまひせき）　島村家〔新川二一四〇〇〕路傍

2・大雄山碑石（だいゆうざんひせき）　島村家〔新川二一四〇〇〕路傍

3・大雄山碑石（だいゆうざんひせき）　島村家〔新川二一四〇〇〕路傍



4・「馬頭観音」文字塔　新川路傍



5・「馬頭観音」文字塔　新川路傍

6・百八十八箇所巡礼塔　栗原宝

7・地蔵菩薩像　栗原宝

8・阿弥陀如来像　栗原宝

9・阿弥陀如来像　栗原宝

26・地蔵像付き庚申塔　下組稲荷神社

27・阿弥陀像付き念仏供養塔　下組稲荷神社

28・青面金剛像庚申塔　下組稲荷神社

29・青面金剛像庚申塔　赤山街道・四号バイパス交差点

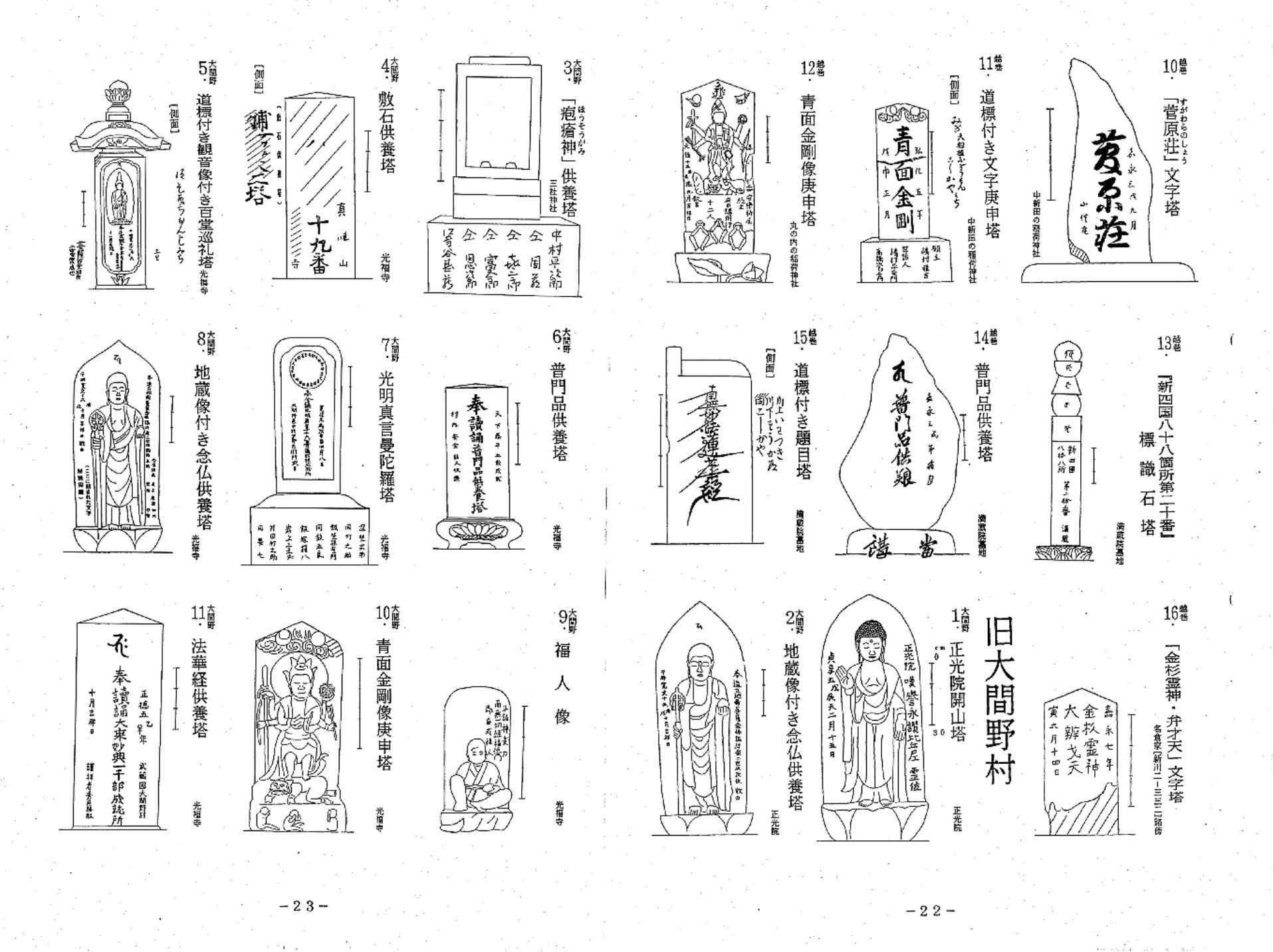
30・文字庚申塔　赤山街道・四号バイパス交差点

31・六十六部回国塔　大沼大明神

32・文字庚申塔　大沼大明神

33・青面金剛像庚申塔　大沼大明神

34・文字庚申塔　大沼大明神



10・「菅原荘」文字塔　中新田の稲荷神社

11・道標付き文字庚申塔　中新田の稲荷神社

12・青面金剛像庚申塔　丸の内の稲荷神社

13・『新四国八十八箇所第二十番』標識石塔　満願院墓地

14・普門品供養塔　満願院墓地

15・道標付き題目塔　満願院墓地

16・「金杉霊神・弁才天」文字塔

旧大間野村

1・正光院開山塔　正光院

2・地蔵像付き念仏供養塔　正光院

3・「疱瘡神」供養塔　三社神社

4・敷石供養塔　光福寺

5・道標付き観音像付き百堂巡礼塔　光福寺

6・普門品供養塔　光福寺

7・光明真言曼陀羅塔　光福寺

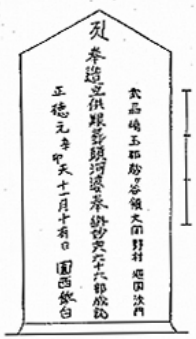
8・地蔵像付き念仏供養塔　光福寺

9・福人像　光福寺

10・青面金剛像庚申塔　光福寺

11・法華経供養塔　光福寺

12・六十六部回国塔　光福寺



13・青面金剛像庚申塔　光福寺

14・青面金剛像庚申塔　光福寺

15・文字庚申塔　光福寺

◎会田出羽家と出羽堀、出羽村

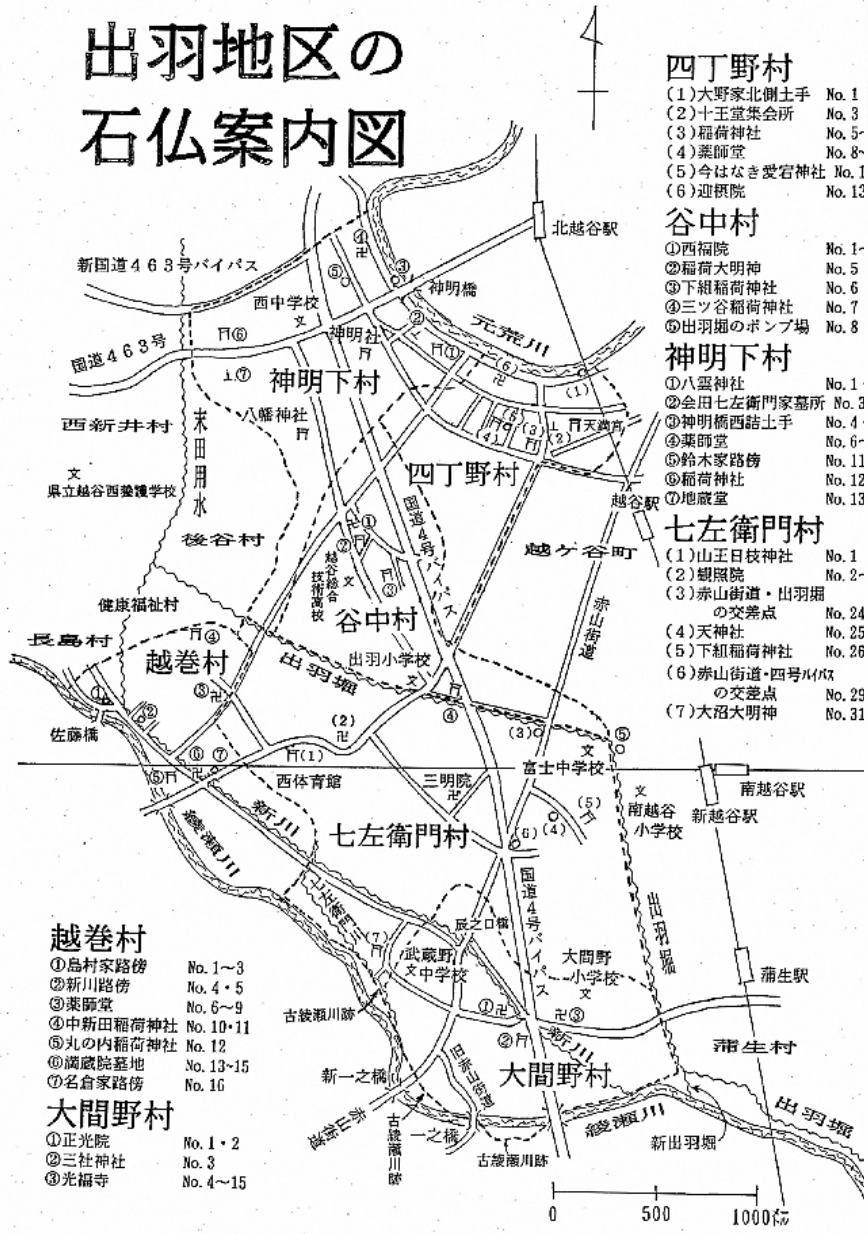
会田出羽家が作ったので出羽堀と名付けられた。明治二十二年の町村合併の時に生まれた出羽村の「出羽」は、ここから採用。

江戸時代の前のこと、現在の出羽地区は沼沢地であった。その沼沢地の開発を手掛けたのが会田出羽資清（すけきよ）である。

なお、その子、資久（すけひさ）は、現在の御殿町及びその南隣の越ケ谷五丁目にかけての広大な敷地をもっていたが、その敷地の一部である現在の御殿町あたりを御殿の建設のため徳川家康に提供している。

さらに、資久の養子に後の会田七左衛門政重がいる。会田七左衛門家の初代となる。会田出羽家の分家といえる。七左衛門は、現在の出羽地区を開墾し、七左衛門新田を成立。後に七左衛門村と称する。七左衛門村からは、さらに後に越巻村と大間野村を分村させる。

出羽地区の石仏案内図



四丁野村

(1)大野家北側土手　No. 1
(2)十王堂集会所　No. 3
(3)稲荷神社　No. 5
(4)薬師堂　No. 8
(5)今はなき愛宕神社　No. 1
(6)迎接院　No. 13

谷中村

①西福院　No. 1
②稲荷大明神　No. 5
③下組稲荷神社　No. 6
④三ツ谷稲荷神社　No. 7
⑤出羽堀のポンプ場　No. 8

神明下村

①八雲神社　No. 1
②会田七左衛門家墓所　No. 3
③神明橋西詰土手　No. 4
④薬師堂　No. 6
⑤鈴木家路傍　No. 11
⑥稲荷神社　No. 12
⑦地蔵堂　No. 13

七左衛門村

(1)山王日枝神社　No. 1
(2)観照院　No. 2
(3)赤山街道・出羽堀の交差点　No. 24
(4)天神社　No. 25
(5)下組稲荷神社　No. 26
(6)赤山街道・四号バイパスの交差点　No. 29
(7)大沼大明神　No. 31

越巻村

①島村家路傍　No. 1～3
②新川路傍　No. 4・5
③薬師堂　No. 6～9
④中新田稲荷神社　No. 10・11
⑤丸の内稲荷神社　No. 12
⑥満蔵院墓地　No. 13～15
⑦名倉家路傍　No. 16

大間野村

①正光院　No. 1・2
②三社神社　No. 3
③光福寺　No. 4～15

6 越谷の六阿弥陀

菅波昌夫

阿弥陀如来を祀る六か所の浄土宗の寺を春・秋の彼岸に巡拝する信仰である。江戸の町でさかんであった。越谷でも「新六阿弥陀」詣りがおこなわれていた。

● 浄土宗　本山、京都・知恩寺、東京・増上寺（徳川家菩提寺）

「念仏（南無阿弥陀仏・はかり知れない力のあるみ仏に帰依します）を唱えれば、だれでも極楽に往生できる」というのが開祖・法然（一一三三～一二一二）の教えである。

むずかしい学問や修行もいらない、念仏を唱えればよいが庶民の心をとらえた。

● 越谷の「新六阿弥陀」

一番　越ヶ谷　至登山天嶽寺　開山　文明十年（一四七八）と伝えるが、定かでない。江戸期、一町一寺の特権を許された。越ヶ谷の住民になるのは、天嶽寺の檀家でなければならなかった。　寺領　十五石

二番　増林　正林山林泉寺　開山　長享元年（一四八七）江戸初期、徳川家康が鷹狩りで立ち寄った。馬つなぎの棹・権現井戸（市指定文化財）がある。

三番　登戸　報身山報土院　開山　天正十年（一五八二）元禄期の立地蔵像、享保期の青面金剛庚申塔、羅漢像二十七体などがある。

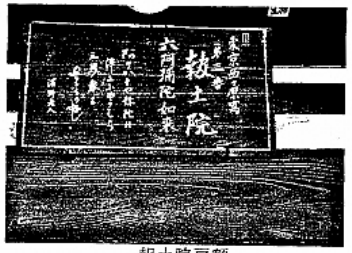
四番　平方　白龍山林西寺　開山　年代不詳　天正十二年（一五八四）、住職となり、中興の祖といわれる呑龍上人の墓がある。　寺領　二五石

五番　大泊　大龍山安国寺　開山　歴応年間（一三三八～四二）　寺領　四石　阿弥陀像、楊柳観音坐像、円空仏三体、板碑、宝篋印塔、山岡鉄州筆の掛軸、雨乞い名号塔がある。

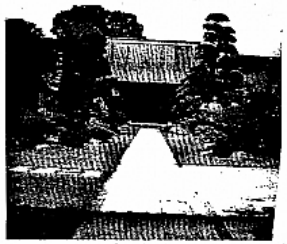
六番　大松　栄広山清浄院　開山　応永二十一年（一四一四）　閻魔大王像、十一面観世音菩薩像、開山塚（東西十三・五m、南北十三m、高さ一・八m）の円墳（市史跡）がある。　寺領　十二石

3番　報土院山門

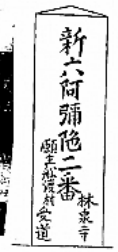
1番　天嶽寺山門



報土院扁額



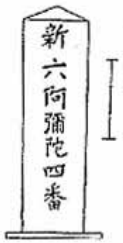
2番　林泉寺本堂

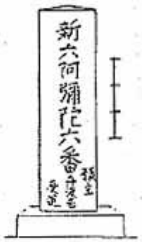


4番　林西寺本堂

5番　安国寺山門

6番　清浄院本堂





7 近藤 勇 ―逮捕か任意同行か―

宮川 進

新撰組隊長・近藤勇は「下総国流山（いまの千葉県流山市）において、官軍に逮捕された」というのが一般に流布されている話である。

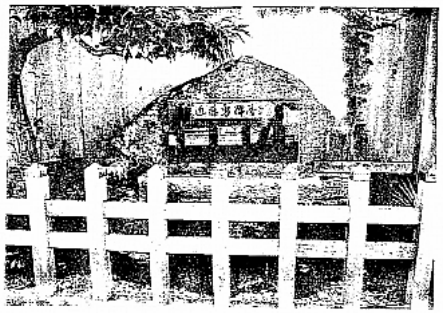
しかし、当時の記録をみると、「逮捕」はされていないようである。

大久保大和と名乗っていて、本人かどうか絶対確実ではなかったし、逮捕という強硬手段に訴えた場合、一戦を交えなければならなくなることもあり、官軍としては、「申し開きのため、官軍本営に出頭してほしい」と、今の言葉でいう「任意同行」をさせたものと思われる。

逮捕ではなかった証拠に、刀は、元新撰組隊士・加納道之助らによる首実験のときまで、所持させていたのである。

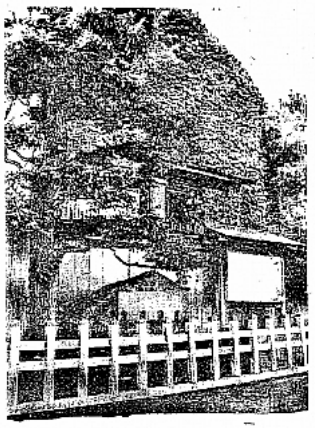
任意同行を求められた近藤勇は、流山からどこに連れてゆかれたか。その夜、粕壁で一泊したという説もあり、越谷で泊まったという説もある。

どちらが正しいか、不明であるが、いずれにしても、板橋の官軍本営へ向かう途中で越谷を通ったのは間違いない。



流山市の近藤勇陣屋跡

酒造家・長岡屋を本陣にした。流山市観光協会の建てた碑には「策をもって近藤勇を誘い、縛に就かした。一説には、近藤勇はみずから敵手に身をゆだねて決戦を避けたという」とある。



参考資料

○「官軍記」　官軍に従軍した岐阜県揖斐川町の「岡田家」の隊士・富田重太郎の日記

○「私の明治維新　有馬藤太聞き書き」　当時、官軍の副参謀であった有馬純雄（藤太）の回想録

○「御祭草子」　官軍に従軍した「彦根藩」の隊士・西村捨三の口述記録

○「島田魁遺稿集」　新撰組隊士・島田魁の記録

○「新撰組往時実戦譚書」　新撰組隊士・近藤芳助の記録

○「史談会速記録　第104集」　元新撰組隊士・加納通広の口述

8 増林のねんね河岸の河童

山本 泰秀

「ねんね河岸の河童」、これは増林の山中（勝林寺の南東側の地域）という地に残る遠く古い頃から伝えられてきた話である。

今日、河原や川で遊ぶ子供達の姿を見ることがなくなって久しい。子供達の遊び方、遊び場所が随分と変わってしまった。川遊びの激変、それは人口の増加にともなって生活排水などによる川の水質悪化、又、昭和四十年代になりほとんどの学校にプールが設置されたことなどがその主たる要因と考えられる。

それ以前の子供達、少なくとも昭和二十年代迄の私達などは夏になると水遊びや蜆採り、ビンド（瓶胴、ガラスの筒製の漁具）で小魚採りと川での遊びに興じていた。この頃の古利根川の水質はとても清く、川辺の人家では炊事洗濯はもとより飲料水としても川の水を利用していた。これほどまでも川に親しんでいたものの、夏のお盆の期間だけはこの川に入ってはいけないという禁忌が長い間代々と受け継がれてきた。この期間に川に入ると河童が現れ、悪さをして深みに引き込み溺死させられるというのである。河童には、悪行、善行、好物、嫌物の四つに大別されるというが、ここの河童は悪行の河童の部類に入る。

古利根川の流れは、増林の林泉寺の裏手から勝林寺の裏手にかけて松伏町赤岩側に大きく蛇行している。川の水はそれゆえに赤岩側左岸にぶつかり、増林側右岸に向けて跳ね返ってくるのである。ぶつかった左岸、跳ね返ってきた右岸の川底は、削られて深みができあがっている。増林側の右岸は、深い所では川底まで二メートル位ある。子供にとっては当然足がつかずに溺れやすく、小学校高学年で上手に泳げるようになってからでないと近づけなかった。赤岩側の左岸は、より一層深かったと思われ、通称「ねんね河岸」と呼んでいた。「ねんね河岸」の場所は、勝林寺の裏手の墓地の対岸あたりである。「ねんね河岸」の伝説は次のとおりである。

母親が子供を背負ってお盆の日に里へ帰ろうとして、松伏側の左岸から増林側の右岸に渡ろうとした時に突然河童が現れ、この親子が深みに引き込まれて溺れ死んだ。

「ねんね河岸」の語源は、子供を背負って寝んねさせて渡ったことからと思われる。この言い伝えは、明治・大正・昭和の生まれの人々の間に語り継がれてきた。

現在の古利根川は昭和三十七・八年頃に河川改修が行われ、川幅も広くなり、河川敷きは掘られてかなり低くなり、大水がきても流れが良いように大きく変貌した。

今日の子供達は、川遊びなどはしないので、今後、この不思議な伝説も聞かされることなく消え去ってしまうのであろう。

古利根川、中川流域の河童伝説としては珍しく、残しておきたいものである。

ねんね河岸

越谷市郷土研究会に入ってみませんか！

越谷市郷土研究会とは　（平成１５年１１月現在）

◎史跡めぐりなどのイベントを毎月実施し、また、毎年、越谷市民まつり・
越谷市民文化祭・こしがや文化芸術祭に展示部門で参加しております。
◎当会は、昭和４０年（１９６５）３月に発足しました。
以後地道に活動し、現在は会員数が３００名程の大所帯となりました。
ほぼ毎月行われる史跡めぐりは３２２回を数えるまでになりました。
◎当会の平成１４年以降の主なイベントと今年７月以降のイベントをあげますと
次のとおりです。

平成１４年３月２４日(日)　３００回記念史跡めぐり・力石を諏訪に訪ねる。
長野県の現地の新聞に大々的に取り上げられ、卯之助の力石が紹介される！
平成１４年６月３０日（日）　歴史講演会「平田篤胤と越谷出身の妻おりせ」
平成１４年９月１１日（水）　バス史跡めぐり「秩父札所めぐり　その一」
以後、秩父札所めぐりその二(10月)、その三(11月)と実施（観光バス使用）
平成１５年１月３日（金）　恒例の七福神めぐり（北千住方面）
平成１５年１月２６日（日）　研究発表会「越谷周辺の諸巡礼」
平成１５年７月１１日（金）　バス史跡巡り「関東の古城と千姫の弘経寺」
平成１５年８月１８日（月）　越谷市内、大道遺跡第２次発掘の見学会
平成１５年８月２４日（日）　記念歴史講演会「力石と力持ち」
主催は、越谷市教育委員会と越谷市郷土研究会（当会）です。
平成１５年９月２８日（日）　出羽地区の石仏めぐり
平成１５年１０月１９日（日）川柳地区の半日史跡めぐり
平成１５年１１月４日（火）　雁坂峠を通って恵林寺を訪ねるバスツアー
平成１５年１１月９日（日）　県立博物館特別展「平林寺」団体鑑賞
平成１５年１１月１６日（日）僧堂開単百年目の秋に平林寺を訪ねる（第322回）

◎会報『古志賀谷』の隔年の発行（Ｂ５版、百十～百五十頁程度）及び無料配布
内容は主に会員による郷土の調査・研究の報告や随想の寄稿文などです。
※なお、以上の他に、越谷市社会福祉協議会への寄付活動なども行ってきました。

郷土研究会にお入りになりますと

◎すべてのイベントの案内が受け取れます。
せっかくよい行事があったのに知らなかった、ということがありません。
◎会員だけのための特別行事に参加できます。
郷土研究会の会員限定イベント、例えばバス史跡めぐり等にも参加できます。

郷土研究会にお入りになるには

◎会費は、年間２千円（４月～翌年３月、会報・諸案内状・諸会議費等）です。
どなたでも気楽に入会できます。市外の方でも歓迎致します。
◎申し込みは、はがきに「平成何年度より入会」とお書きのうえ、住所・氏名・
電話番号をご記入し、下記までお寄せ下さい。
または、当会の各種行事の際に、郷土研究会役員までお申し込み下さい。

〒343-0806 越谷市　宮本町　３－１１７－８　谷岡隆夫方
越谷市郷土研究会
☎０４８－９６２－７５２７